



龍野ロータリークラブ週報

よいことのために手を取り合おう

2025-26 年度国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ

	2025-26 年度 会 長 伊藤充弘 幹 事 神名大典 公共イメージ・広報委員長 段 克史	例 会：毎週木曜日 12:30～13:30 龍野経済交流センター1 階 事務局：〒679-4167 たつの市龍野町富永 702-1 龍野商工会議所内 TEL 0791-63-4141 FAX 0791-63-4360 E-mail tatsunorc1@gmail.com
--	---	---

No.8 (3210 号) 2025 年 (令和 7 年) 9 月 4 日 (木) 曇
例会記録

点 鐘 君が代
奉仕の理想
来 客 揖龍保護区保護司会 会長 堀 保彦様
来訪会員 なし

出席報告

会員数	出席	出席免除	欠席	出席率	前々回欠席	メイクアップ	修正出席率
21	14	3	7	77.78%	6	5	94.73%

会長の時間 ●伊藤会長

9 月になりました。これまでは、ロータリーの目的や基本理念、基本価値観などについてお話してまいりましたが、今月はロータリーの「ビジョン声明」についてお話させていただきます。

ロータリーはその目的を達成するために、ビジョン声明として方向性を示しています。目的地に行くためには地図が必要ですが、その地図が「ビジョン声明」ということです。ロータリーのビジョン声明は、クラブ会員、事務局スタッフ、一般の方々など世界 100 万人以上の人たちの声に基づいてつくられたそうです。このビジョンは、意欲と積極性を引き出し、ロータリーを未来へと導くものとされています。

そのビジョンとは「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」です。この声明はホームページの中などには、ところどころで紹介されています。

このビジョンを実現するためには、行動しなければなりません。ロータリーのメンバーがこのビジョン実現に向けてバラバラに行動しても成果が得にくくなりますので、「四つの優先事項」を

掲げています。アクションプランとして明確に説明されています。

優先事項を設定している目的は次の 4 つになります。

- ①組織を強化することで、ロータリーの価値観を今後も守る。
- ②効果的な方策を用いることで、あらゆるレベルで組織を強化する。
- ③ロータリーに参加する全ての人が有意義で価値ある体験が出来るようにする。
- ④より大勢の人の暮らしと地域社会を良くする。

四つの優先事項＝アクションプラン

1. より大きなインパクトをもたらす

奉仕プロジェクトのデータをより効果的な方法で定義、測定、分析するために必要な手続き、能力、インフラを築き、これを実行しましょう。

2. 参加者の基盤を広げる

これまで会員がいなかった新しい層の人たちとロータリーの価値観を共有し、仲間を募ってロータリーを体験してもらう方法を生み出しましょう。ロータリーがインクルージョンと参加



を促しながら、思いやりを持って、変化を生み出すという大きな目標を掲げていることを身をもって示しましょう。

3. 参加者の積極的なかわりを促す

すべての出会いをロータリーへの参加の機会として生かすことと、ロータリーを通じて地域社会や関心のある分野で大きな変化を生み出せることが出来ることをしましょう。

社会奉仕委員会アワー

● 冨田委員長

揖龍保護区保護司会 会長 堀 保彦様

「共感性でのライフスキル」



「花」は単に美しくあろうとなかろうと見てくれる人がいようといなくても天から与えられた命の中で、何も言わずひがむこともなく精一杯咲いています。生きるとはそういうことかと花から教えられながら、人間は自由であり、何と贅沢な生きものなんだと感ずることがあります。人間の本能は、生きたい・知りたい・つながりたいと言われます。せっかく生まれてきたのだから一生懸命生きたい。生きるための知恵として学びたい、知りたい、学んだことは話したい、誰かに聞いて欲しい。そして、つながっていききたいということでしょう。特に、人より優れた能力はなくても不得意でも自分の持っている可能性を信じて努力することが美しいし、その努力が認められ生きがいを感じて、より良く生きることになるのかなあとそんなことを考えることがあります。今まさに「より良く生きることが冒険である」という時代を迎えております。より良く生きるとは、自分の都合よく生きることではなく、社会の一員としての自覚を持ち、主体的に創造的に個性豊かに生きることではないのでしょうか。しかしながら、人として生きる上で心が通い難くなった時代を象徴するような犯罪が報道される度に、とても情けない思いを致しております。

凶悪で特異な事件が続発している現実を見ると、核家族化・非婚化・単身化による人間社会に

4. 適応力を高める

私たちが学び、進化し、地域社会によりよく奉仕できるよう、研究と革新、および進んでリスクを負うことを奨励する文化を作りましょう。

これらのアクションプランに対してクラブとして何をどう考えてどう行動すればいいのかは、次の機会に具体的に紹介させていただきます。

おける支え合いの機能が失われ、プライバシー保護の厳格化、ネット交流の主体化によりコミュニケーションの希薄化などの要因が重なり合い、ストレスによる人格破壊の歪みと心の弱さ、また視野の狭さによる決めつけが犯罪を生む大きなウエイトを占めているようにも思います。地域住民の皆様方の社会的連帯感を強め、犯罪や非行を抑止する力を増進することで、犯罪や非行が起これにくい地域社会づくりを目指して、より一層の創意工夫を凝らしていくことが要求されています。

近年、保護観察対象者の生育歴と人間関係の小集団である家族のあり方の著しい変化に葛藤を抱えることがあります。時代を振り返り平成初期までの大家族であった頃には、家庭を守る人が居て、お互いの会話が弾む団らんの間がありました。しかしバブル崩壊後、大家族が核家族・小家族になり共働き家庭が増え家庭を守る人が居なくなり、家族団らんの生活がお金のための生活に変わってきました。そして、大人も子どももストレスが溜まり、いじめ・DV・虐待・窃盗・詐欺などを生んでいるようにも思います。そんな時代を迎えていても、人間にはここぞという時には共感する能力があります。他人と喜怒哀楽の感情を共有するという共感が積み重ねられていけばいくほど、人間関係の深まりは増していくと信じております。初対面であっても、共通の話題とか共通の経験によつての価値観を共有することで、人間関係を深めていくことができます。そういった共感性でのライフスキルを考えるならば、すべての人々の願いは、安全で安心な生活をおくることのできる地域社会の実現ではないかと思ひます。

犯罪や非行は地域社会で起こり、過ちを犯した人もいずれは地域社会に戻ってきます。過ちを犯して、立ち直る決心をした人が地域社会に



戻ってきた時には、健全な一員として更生できるように、やり直しのできる社会を構築することが再犯防止に大きな役割を果たすこととなります。

急速な社会の変化に柔軟な対応をしつつ共に生きる社会の実現を目指し、更生保護の心を広めてまいりたく思っております。